

# 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称(製品名) : ニュートップコート  
会社名 : 亀水化学工業株式会社  
住 所 : 大阪府寝屋川市豊里町 17-16  
担当者 : 品質保証室  
電話番号 : 072-826-7720  
FAX 番号 : 072-826-1299  
緊急連絡先 : 同 上  
改訂日 : 2024 年 8 月 26 日

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	:	区分 2
	自然発火性液体	:	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	:	区分に該当しない
	急性毒性(経皮)	:	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:蒸気)	:	区分 4

\* 記載がないものは分類対象外又は分類できない。

\* 健康・環境に対する有害性データは、原材料(酢酸エチル)のものであり、製品の試験データではない。

### GHS ラベル要素

#### 【絵表示】



【注意喚起】 危険

#### 【危険有害性情報】

- ・引火性の高い液体および蒸気
- ・吸入すると有害
- ・眼刺激
- ・呼吸器への刺激のおそれ
- ・眠気またはめまいのおそれ

#### 注意書き

#### 【安全対策】

- ・使用前に取扱説明書を手し、すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・指定された保護手袋、保護眼鏡・保護面、呼吸用保護具、保護衣を着用すること。
- ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。

- ・容器を密閉しておくこと。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・蒸気、ミストを吸入しないこと。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。

#### 【対応】

- ・吸入した場合：気分が悪い時や呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸がしやすい姿勢で休息させ、医師に連絡すること。
- ・皮膚に付着した場合：直ちに、汚染された衣類をすべて取り除き、皮膚を多量の流水と石鹸で洗うこと。気分が悪い時や皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断・手当てを受けること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを使用している場合は外し、その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断・手当てを受けること。
- ・飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師の診断・手当てを受けること。

#### 【保管】

- ・容器を密閉し、涼しく換気の良い場所で保管すること。また、施錠して保管すること。

#### 【廃棄】

- ・内容物・容器を適切な焼却炉で焼却処理するか、許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名	含有量(%)	CAS 番号
酢酸エチル	≤90	141-78-6
その他	非公開	非公開

### 4. 応急措置

- |           |  |
|-----------|--|
| 吸入した場合    | ・空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪いときは医療処置を受ける。  |
| 皮膚に付着した場合 | ・汚染された衣類・靴等を速やかに脱ぎ捨てる。触れた部分を水又は微温湯を流しながら十分な時間をかけて洗浄する。皮膚刺激又は発疹が生じた場合は直ちに医療処置を受ける。        |
| 眼に入った場合   | ・清浄な水で数分間洗浄した後、直ちに医師の手当てを受ける。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り取り除いて洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合、医療処置を受ける。 |
| 飲み込んだ場合   | ・水でよく口の中を洗わせる。気分が悪い場合は医療処置を受ける。  |

### 5. 火災時の措置

- |             |  |
|-------------|--|
| 適切な消火剤      | ・粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂。  |
| 使ってはならない消火剤 | ・棒状の水  |
| 特有の危険有害性    | ・加熱すると容器が爆発するおそれがある。<br>・火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 |
| 特有の消火方法     | ・火災発生場所の周囲には関係者以外の立入りを禁止する。                                  |
| 消火活動を行う者の保護 | ・消火作業の際には必ず保護具、全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。                          |

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置 環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び 機材：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の際は必ず保護具を着用し、風上より作業する。風下の人を退避させる。漏出した場所の周囲にはロープを張る等して人の立入りを禁止する。</li> <li>・下水に流してはならない。</li> <li>・漏洩液は、おが屑、ウエス、砂等に吸収させて容器に回収する。</li> </ul>
二次災害の防止策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付近の着火源となるものを速やかに取り除き、着火した場合に備えて、消火剤を準備する。</li> </ul>

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
[技術的対策]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内で取扱う場合、局所排気設備等で特に換気を充分に行うこと。</li> <li>・皮膚からの吸収、皮膚・眼との接触、蒸気の吸入等を避けるため適切な保護具を着用する。</li> </ul> <p>(8. ばく露防止及び保護措置 保護具の項参照)</p>
[安全取扱注意事項]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。</li> </ul>
[接触回避]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10.安定性及び反応性 の項参照。</li> </ul>
[衛生対策]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取扱い後は、汚染箇所をよく洗うこと。</li> <li>・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。</li> </ul>
保管	
[安全な保管条件]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直射日光を避け密栓して、換気又は風通しのよい冷暗所に保管する。</li> </ul>

## 8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定されていない。(酢酸エチルとしては以下のとおり)</li> <li>・ACGIH(1979年版) TWA 400ppm(上気道及び眼刺激)</li> <li>・日本産業衛生学会(1995年版) 200ppm, 720mg/m<sup>3</sup></li> </ul>
設備対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内作業場での使用の場合は、発生源の密閉化又は局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明確に表示すること。</li> </ul>
管理濃度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本産衛学会(2004年版) &lt;= 200ppm(酢酸エチルとして)</li> </ul>
保護具	<p>[呼吸器の保護具]: 防毒マスク(有機ガス用)、濃度が高い場合は送気マスク、空気呼吸器。</p> <p>[手の保護具]: 耐油性保護手袋。</p> <p>[目の保護具]: 保護眼鏡又は防災面。</p> <p>[皮膚及び身体の保護具]: 保護長靴、保護衣服。</p>
衛生対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取扱い後は、手洗い及びうがいを十分する。</li> </ul>

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色透明
臭い	特有臭
融点/凝固点	酢酸エチル : -84°C
沸点又は初留点及び沸点範囲	酢酸エチル : 77°C
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	酢酸エチル : 2.0 ~ 12.8 vol%
引火点	酢酸エチル : -4°C(密閉式)

自然発火点	酢酸エチル : 427°C
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	酢酸エチル : 水に対する溶解度(溶けにくい) 8.7g/100ml(20°C)
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	酢酸エチル : log Pow 0.73
蒸気圧	酢酸エチル : 310 kPa(20°C)
密度及び／又は相対密度	酢酸エチル : 0.9 / 20°C
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	通常の取扱い条件において安定である。
危険有害反応可能性	酢酸エチル : 蒸気は空気より重く、地面に沿って移動して、遠距離発火の可能性がある。強酸化剤と反応する。火災や爆発の危険を生じる。強塩基および強酸と激しく反応する。ゴムおよびある種のプラスチックを侵す。(ICSC 0367)
避けるべき条件	混触危険物質との接触。火源との接触。
混触危険物質	強酸、強塩基、強酸化性物質。
危険有害な分解生成物	燃焼生成ガス(一酸化炭素、二酸化炭素)

## 11. 有害性情報

酢酸エチルに関しては、以下のようなデータが報告されている。

急性毒性	(吸入) [日本公表根拠データ] (酢酸エチル)vapor: rat LC50=13856ppm/4hr (ACGIH, 2001)
皮膚腐食性／皮膚刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	[日本公表根拠データ] (酢酸エチル)ラビット Draize test MMAS=15.0 (ECETOC TR48, 1998)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	日本産業衛生学会の「皮膚感作性物質 第2群」に指定されている。 アレルギー性皮膚炎の発生例がある EU リスク警句「R43 皮膚接触により感作を引き起こすことがある」に指定されている。
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	気道刺激性、麻酔作用
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし

## 12. 環境影響情報

酢酸エチルに関しては、以下のようなデータが報告されている。

生態毒性	甲殻類 オオジシロ LC50=2,500mg/L/24hr (SIDS, 2008)
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	log Pow = 0.73
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

### 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。

### 14. 輸送上の注意

国連番号	UN1993
国連分類	クラス 3(その他の引火性液体)
容器等級	II
海洋汚染物質	該当しない。
国際規制	海上規制情報：IMO/IMDG コードの規定に従う。 航空規制情報：ICAO-TI/IATA-DGR の規定に従う。
国内規制	陸上規制情報：消防法、道路法の規定に従う。 海上規制情報：船舶安全法、港則法、海洋汚染防止法の規定に従う。 航空規制情報：航空法の規定に従う。

### 15. 適用法令

薬機法	管理医療機器（歯科レジン系補綴物表面滑沢硬化材） 歯科医療有資格者以外は使用しないこと。
労働安全衛生法	名称等表示危険/有害物，名称通知危険/有害物 酢酸エチル(政令番号 177) 危険物・引火性の物
消防法	酢酸エチル：危険物第 4 類第 1 石油類（非水溶性）

### 16. その他の情報

その他

\*本製品は、歯科用医療機器、歯科レジン系補綴物表面滑沢硬化材です。

\*この SDS は現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分ご注意下さい。

\*記載のデータや危険性、有害性の評価等に関して、いかなる保証もなすものではありません。